

<b>授業科目名</b>	社会科学の基礎(2000021)		
<b>時間割名</b>	社会科学の基礎(22114)		
<b>時間割担当</b>	西川弘展		
<b>実施期</b>	後期	<b>単位数</b>	2 選択
<b>曜日・時限</b>	火・2		

### 授業の目標・概要

社会科学は社会に固有な問題に焦点を当てそれらを科学的・体系的に考察するさまざまな学問領域を総称する言葉です。ここでは自然と対置された意味での「社会」、そして客観的な法則性・傾向性に着目しながら、定量的・定性的な分析を用いるという意味での「科学」という二つのキーワードが注目されます。

実際は、こうした社会科学にはさまざまな学問領域が含まれており、複数形の社会諸科学という言葉こそがこのことを的確に示しているといえます。そして、重要な点は、社会諸科学のうちどの領域から社会を見るのかによって、問題のとらえ方、ひいては社会の見え方そのものまで大きく異なってくるということです。社会科学全体を踏まえて、社会科学とされるすべての領域をとりあげ単一の総合的社会科学体系なるものをうちたてることができれば理想ですが、学問の現状からみても、そういうことは不可能といえます。

そこでこの授業では、まず、社会諸科学においても重要な位置を占める経済学を取り上げ、その制度化の経緯、主要な諸問題、それらを解明する基礎理論を学びます。次に、社会問題に経済学を応用した事例を学びます。最後に経済学内部での論争、経済学内部からの反省、経済学への批判を紹介することで、社会科学の在り方そのものを考える材料を提供したいと思います。

### 学習の到達目標

- ・社会科学の基礎的事項の知識の習得と活用
- ・社会科学の一典型としての経済学の歴史と基礎事項の習得と活用
- ・社会現象に対する関心と理解を一層促進させ、受講者各自の生活領域や専門領域との関連で考える習慣の涵養

### 授業方法・形式

配付資料を用いて講義形式で行います。

### 授業計画

授業全体を5つのパートに分けて、それぞれのパートについて3回の授業を行います。

第1部 社会科学発展の経緯としての経済学の歴史(第1回~第3回)

第2部 経済分析のフレームワーク(第4回~第6回)

第3部 経済問題とその分析(第7回~第9回)

第4部 社会問題の分析(第10回~第12回)

第5部 社会科学としての経済学の在り方(第13回~第15回)

### 成績評価の基準

平常点(40%) + 定期試験(60%)で評価します。

### 準備学習・復習及び授

関連図書・関連資料を読んだり、インターネットを活用して調べるなど授業内容に関連する相応の自学自習が必要です。

### 履修上のアドバイス及

社会科学で取り上げられる問題は、個人個人に関わっているだけではなく、皆で解決を図るべき社会的な課題とも関連しています。

授業の内容に即した、関心と問題意識、考えていくという姿勢をもって積極的に参加してください。

### 教材・教科書

授業用の資料を用います。  
特定の教科書は使用しません。

### 参考書

参考書は授業のつどに紹介します。